

令和3年度 前期学校関係者評価書

南アルプス市立大明小学校

第1回 学校関係者評価委員会【書面開催】

1 実施日 令和3年9月10日（金） 書面提案

2 評価者 学校関係者評価委員
石田 敏枝（委員長）
杉山由貴子
市川 和男
市川 政子
高野 晃史
岩間 芳樹
村松 圭祐
学校職員
穴山 直樹（校長）
横澤 敏英（教頭）
小泉 昭市（教務主任）

3 学校から提案された内容（書面）

- ①保護者アンケート（教頭）
- ②教職員による自己評価（教務主任）
- ③児童アンケート（教務主任）

4 学校から書面提案した3つのアンケートに対する「意見・感想」など

（1）保護者アンケート結果

- ①全家庭へのアンケートの実施・集計は大変でした。記名式だったので、回答は正確だと思います。円グラフは、見やすくよかったです。ほとんど90%以上が肯定的で、先生方の努力の様子がわかります。問10、問13については、毎年話し合われます。子どもだけでなく大人も考える必要があります。保護者の意見もしっかり取り上げ、一問一問の考察がきちんとなされていると思います。
- ②肯定的意見が多くて安心しました。コロナ対策もある中で、保護者との連絡を丁寧に行っている様子が保護者に伝わっています。個々の意見の中にはとても参考になることが多く、すぐに改善できること、長期的に改善に取り組むことがあります。子どもにとって大事なことを念頭において取り組んでほしいです。
- ③円グラフ化とアンケート対象の拡大、よかったと思います。29名のみなさんの御意見、とても参考になりました。学校が楽しいという質問は、いい質問と思えません。楽しい日、楽しい時、いやな時、「楽しさとは」具体的に。
- ④全体の考察にもありましたが、学校と保護者とのコミュニケーションの大切さを感じました。コロナ禍で難しい面も多いと思いますが、お互いに共通理解をもって子どもたちをみていくことが必要だと思います。共通理解をもてるような機会を工夫してつくっていくことをお願いしたいと思います。
- ⑤総じて保護者からの要求が多い。自分が子どものころ、親がこのように思っていたのかなあと思うと感じ入ってしまう。
学校から早く帰らせると困るとか防災の引渡しは上手いかないとか、本当の災害が起こった場合、もっと混乱することがわかっていない。訓練だからこんなことで済むが、家庭との連携を構築することが必要に思う。
学校で引き受けること、家庭で行うことの区別が非常に難しいことの表れが出ている。対応の仕方を間違えると炎上するし、関係者の苦労もわかる。一つ一つ解決するのも時間がない、というジレンマに陥ってしまう。担任の努力にかかるところが大きく、たいへんだと思うが、私たちには「がんばって」しか言ってやれないところも苦しい。

コロナ禍で大変厳しい時間が続いている。親も大変だが、学校関係者も苦しい時期と承知している。「大明」しかできない何か新しい試みは？

学校によって若干内容が違うようだが、他の学校のアンケート結果はどうなのだろうか？という設問もある。ジャージの厚みとか朝の連絡（電話での）があるが、普段の生活から解決できそうなこともあるように思うが？

- ⑥地域の中でのあいさつに関して、大人としては防犯の意味もふまえて声かけをしているつもりだが、子どもにしては知らない人から声をかけられたという感じが見受けられる。私の子どもも、知らない人から「おかえり」と言われて困ったという事があり、子どもにもそういったあいさつの意識をもってほしい。
- ⑦歯は一生のものなので、給食後のハミガキは必要かと思うけれど、コロナ禍なので市教委に確認が必要。体育着の改善は必要。健康チェックカードを忘れた場合、親のみに電話し、連絡がつくまで保健室待機。この時期に前日も元気だったことは通用しないです。電話がつながりにくい時間帯などの記入も今後必要かと。

(2) 教職員による自己評価

- ①子どもたちのために真剣に取り組まれていることがよくわかります。結果を項目ごとに考察されており、とてもわかりやすかったです。コロナ禍の中で特に学校行事については授業時間の確保や学級経営とからめて努力されている様子がわかります。終礼や朝礼、学年の打合せなど工夫され職員全体で問題に取り組み、保護者との連携を大事に努力なさっている先生方ありがとうございます。
- ②教科・授業に関して、先生方の努力が伝わってきます。ただ、必要なら教育ボランティア（すでに入っている人もいますが）を活用することも効果的だと思う。あいさつについては、登校班の班長さんの元気なあいさつが班員の手本となり、引き継がれていると感じている。
- ③来年の入学生徒数が多く教室を増やすとの記事、対応が空き教室の活用でということ、限られた予算の中、御苦勞様です。シロアリの記事、ビックリしました。
- ④これまでもそうでしたが、特に今は、コロナという状況の中で、現場の先生方が学習指導、生活指導、保健指導・・・など、あらゆる面で、子どもたちのために日々頑張ってくださいていることを、大切な思いをされていることをひしひしと感じます。どうか、先生方御自身の心身の健康にも十分気を付けていただきたいと願っています。
- ⑤負となる（感じる）回答結果に対する解決策が肝心である。主体的にとかできる限りとかは、どうだろうか？きっちりとした（難しいと思うが）対応策を出したほうが、保護者もわかりやすい。
子どもによって違うと思うが、やはり小学1年～2年のころの思い出は深いのではないかと今でも思う。大切にしたい時期と感じる。ここが上手くいくと「アンケート」による課題も解決していくのではないかと。
今農協に勤めている。市役所時代と明らかに違うのは「あいさつ」市ではあまりあいさつはしないが、農協ではいやというほど挨拶が返ってくる。普段の行いか？辛抱強くかわってほしい。
- ⑥考察・改善等、常に変化がみられ非常によい事だと感じる。生徒指導についての「よい」のパーセンテージの高さに安心を覚えた。
- ⑦挨拶・掃除中のおしゃべり、食べる時のマナーなどは、すべて家庭で教えること、自然に身に付くものなので、学校の先生方は、もっと強く、このことを発信していった方がよいと思います。

(3) 児童アンケート結果

- ①何より学校が楽しいと子どもたちが思っていることは素晴らしいと思います。低学年では、アンケートをとる時の気持ちで答えに影響することもあると思います。高学年が100%近く肯定的なのは、すばらしいです。子どもたちが生き生きと活動している様子がうかがえます。困った時に・・・は、ほとんどいるので安心しました。先生方を信頼し、親を信頼している子どもたちの様子がよくわかります。
- ②経年でみていくと、学年その学年の子どもたちの傾向があるようです。子どもの感じ方の個性というのもあるのでしょうか。そこをふまえて担任の先生には指導をお願いします。特に

否定的な解答の子には、心をかけてほしいと思いました。

- ③外孫を夏休み中10日間、預かりました。持参したタブレットでゲームに夢中になっている姿を見ました。目が悪くならないか心配です。
- ④あいさつの項目については、児童アンケートでは「よくできた、できた」と肯定的な回答が多いのですが、保護者・教職員アンケートでは、逆に「よい」が少なくなっています。登校の時の子どもたちの様子を見ていると個人差が大きく、とてもよくできる子もいるし、反対にできていない子も多いです。地域の中では、なかなか難しいですね。大人から出来るだけ声かけしていくようにしています。
- ⑤やはりここでも否定的な回答の解決策が問題ではないかという設問が多い。「楽しくない」「行きたくない」「わからない」といった子どものフォローが課題か？上だけを見ればいいのか、下支えするのか、永遠の課題ではないだろうか？少しでも子どもの支えになってあげてください。
- ⑥全体的によくできた割合が高いところに感心した。やはり自ら進んであいさつや受け答えができることを望む。
- ⑦低学年に「学校へ行きたくない」と思ったことがある子の割合が高かったのですが、コロナ禍でいろいろな我慢をしてきている子たちなので、今以上に目を向けてもらえると、保護者も安心すると思う。そして、「困った時に相談する人がいない」割合も低学年に多いので、(大人も大変ですが)子どもに今以上に目を向けてあげられたらよいと思う。

*その他(相対的に)

自分たちが子どものころ、自分の子どもが子どもの頃とだいぶ考えが変遷していると感じる。今さらの話ではないが、ニュースなどで見るたいけな出来事が周りで起こらないことだけ救いであるし、今後起こらないことを望むだけである。日々の先生方の苦労もわかるし、わがままの方が強いかなと！努力だけでは解決しないし、学校長や教育委員会の後押しを望む。

令和3年度 学校評価委員会は、書面提案をもって、開催にかえます。いただいた御意見・感想につきましては、ほぼ原文のまま載せさせていただきました。貴重な御意見、ありがとうございました。

令和3年9月

評価書作成責任者

関係者評価委員会委員長
事務局 学校職員

石田 敏枝
横澤 敏英